

事務事業チェックシート

事務事業No 429 事業名 魅力ある商店街づくり事業

[長期総合計画]

分野別目標	1	安定した雇用を生み出す産業が元気なまち
政策	1	地域を支える既存産業の振興
施策	1	地域を支える既存産業の振興
取組方針	3	地域の生活を支えるサービス産業の生産性向上

事業種別	継続	
事業期間	H8 ~	
事業実施の根拠法令		
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	商工振興課	清水 出(435-1233)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		商工費	
	項		商工費	
	目		商工業振興費	
	大事業		商工業振興事業	
事項		魅力ある商店街づくり事業		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か)	事業内容				
	商業の衰退が顕著になる中、商店街内の店舗を個性のある魅力的な店舗とすることで、人が行きかう賑わいのある商店街とする。	・商店街や商店街内の個店が商店街活性化のために新たに実施する事業に対し補助する。補助率1/2 限度額50万円、個店が実施する場合は10万円				
実施内容		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		・集客・販促支援事業、商店街魅力UP事業に対し補助する。 ・コミュニティ機能強化支援事業に対し補助する。	・集客・販促支援事業、商店街魅力UP事業に対し補助する。 ・コミュニティ機能強化支援事業に対し補助する。 ・JR和歌山駅周辺でイルミネーション装飾を行う。	・集客・販促支援事業、商店街魅力UP事業に対し補助する。	・商店街や商店街内の個店が商店街活性化のために新たに実施する事業に対し補助する。	・商店街や商店街内の個店が商店街活性化のために新たに実施する事業に対し補助する。

2 事業コスト

事業費等 (千円)	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	7,670	5,714	6,870	18,119	3,780	2,860	2,800		2,800	
伸び率 (%)	-	-	▲10.4%	217.1%	▲45.0%	▲84.2%	▲25.9%	▲100.0%	0.0%	-
人件費										
正規職員	5,389	4,987	4,987	5,025	5,025	5,049	4,039		4,039	
正規職員以外	298	141	141	149	149	0	0		0	
小計	5,687	5,128	5,128	5,174	5,174	5,049	4,039		4,039	
国庫支出金						2,700				
県支出金	1,500	1,500	1,500	1,500						
市債										
その他				10,000						
一般財源 (税等)	6,170	4,214	5,370	6,619	3,780	160	2,800		2,800	
所要人数 (人)										
正規職員	0.73	0.67	0.67	0.66	0.67	0.64	0.51		0.68	
正規職員以外	0.19	0.09	0.09	0.09	0.09	0	0		0	
主な予算内訳	商業活性化支援事業補助金 2,800千円									

3 目標及び実績

指標名	単位	目標値	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
活動指標 集客・販売促進を目的とするイベント事業への助成件数 (累計)	件	目標値	15	11	7	0	0
		実績値	10	10	8		
		達成度 (%)	66.7%	90.9%	114.3%		
活動指標 商業団体や個店が商店街活性化のために新たに実施する事業への助成件数 (累計)	件	目標値	2	3	4	5	6
		実績値	2	3	4		
		達成度 (%)	100.0%	100.0%	100.0%		
成果指標 年間商品販売額 (商業統計)	億円	目標値	9,100	9,100	9,100	9,100	
		実績値	9,121				
		達成度 (%)	100.2%				
成果指標 空き店舗率 (空き店舗数/総店舗数)	%	目標値	20	20	20	20	
		実績値	12.1	14.7	15.4		
		達成度 (%)	165.3%	136.1%	129.9%		

4 事業の評価

評価基準						
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい		減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要		見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能		市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む		緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない		できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)		達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある		貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある		できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない		見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街への補助金交付により、商店街が専門家を招へいし勉強会を開催する等の新たな動きにつながっており、今後も継続して支援していくことにより商店街の魅力向上を図ることができると考えられる。 ・商店街の個店が商店街アーケード内の一部にテラスを増席するなど、商店街の魅力の向上につながっている。
見直し・改善内容	<ul style="list-style-type: none"> ・集客・販促支援事業に対する補助を平成29年度から廃止した。 ・商業団体や個店が商店街活性化のために新たに実施する事業に対する補助は、商店街の個店の魅力を高め、生産性を向上させていくためにも継続して実施する。